

第30番 善楽寺

●高知県高知市一宮しなね2-23-11
☎088-846-4141
●宿坊/なし



第31番 竹林寺

●高知県高知市五台山3577
☎088-882-3085
●宿坊/なし



沿線の見どころ



高知県立美術館

マルク・シャガールの世界的版画コレクションや写真家・石元泰博ら高知ゆかりの作家作品を収蔵。多様なジャンルの企画展やワークショップの開催、美術館ホールでのコンサートや映画の上映会など、様々なイベントを手がけ、高知の芸術に関する情報発信基地となっている。併設されたミュージアムカフェやアートグッズを販売するミュージアムショップも人気。

所 高知県高知市高須353-2
☎ 088-866-8000
時 9:00~17:00
休 12/27~1/1 ※臨時休館あり
料 コレクション展観覧料大人360円



境内の見どころ



梅見地蔵

子安地蔵堂の奥に鎮座する地蔵は、文化13年(1816)の作。学業成就、合格祈願、首から上の病の平癒祈願にご利益があるとされ、全国各地から参拝客が訪れる。かつては梅の木の下にあり、その木を仰ぎ見る姿から「梅見地蔵」と呼ばれるようになった。梅見地蔵の枕カバー(1,000円)も授与されている。



境内の見どころ



子安地蔵堂・水子供養堂

本堂と大師堂の向かいに建つ子安地蔵堂には、白い顔がどこかユーモラスな子安地蔵が鎮座している。この地蔵は子宝祈願にご利益があるとされる。また、その隣には水子供養堂があり、フェルト地でできたかわいい地蔵絵馬(300円)がある。願いごとを書き込んで奉納したり、そのまま持ち帰ったりできる。



土佐神社と隣接する境内。駐車場もすぐそこ

第30番

百々山 善楽寺

どどざん とうみょういん ぜんらくじ

明治の廃仏毀釈に翻弄された古刹

歴史・全体像

大同年間(806~810)、弘法大師がこの地に巡錫のおり、高鴨大明神(現土佐神社)の別当寺として神宮寺と善楽寺を建立。善楽寺を四国八十八ヶ所霊場第30番と定める。しかし明治時代になり、神仏分離、廃仏毀釈のあおりを受け、神宮寺と善楽寺は廃寺となる。明治9年(1876)、安楽寺が「仮の借置」として30番の代行業務を行う。昭和4年(1929)には善楽寺も再興し、その後は善楽寺と安楽寺の二ヶ所で30番の納経を行うこととなった。

平成6年(1994)、安楽寺が第30番の奥の院、善楽寺が正式に第30番となり、この騒動に決着がついた。

境内

駐車場に隣接した境内は、明るい日差しが差し込む開放的な雰囲気。

土佐一宮として知られる土佐神社が隣にあるため、参拝者も多い。本堂の手前にある大師堂は、大正時代に建てられたもの。

本堂は昭和57年(1982)に改築された。本尊は金仏阿彌陀如来坐像。また、本堂内には江戸時代末期の木造薬師如来坐像や観音菩薩などが安置されており、その向かいには子安地蔵堂と水子供養堂、梅見地蔵がある。

奥の院・安楽寺は、善楽寺より約5km西、高知市街に入り、高知城の北側にある。



本堂の前には釈迦の足跡を印した仏足跡



御詠歌/人多くたちあつまれるいちのみやむかしもいまもさかえぬるかな
本尊/阿彌陀如来
真言/おん あみりた ていぜい からうん
宗派/真言宗豊山派
開基/弘法大師



日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

